

# まき 倶楽部

2026  
冬  
Winter



トピックス

『にこやかに、おだやかに、すこやかに』  
～在宅生活の“安心”を支えるために～  
/牧すこやかセンターデイケア

vol.144



牧すこやかセンター デイケア作品

## INDEX

- ◎年頭所感/牧ヘルスケアグループ 理事長 牧 恭彦
- ◎牧リハ学術フェスティバル/牧リハビリテーション病院
- ◎〈災害対策イベント〉お薬情報いつも一緒に～毎日の備えがあなたを守る!～/牧病院
- ◎〈世界糖尿病デーイベント〉牧病院\*World Diabetes Day/牧病院
- ◎笑って元気!秋の運動会/まきデイサービスセンター

# 年 頭 所 感



牧ヘルスケアグループ 理事長  
まさ やすひこ  
牧 恭彦

皆様、新年あけましておめでとうございます。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年です。燃え立つ火と駆ける馬の象徴は、挑戦への情熱と進化への決意を象徴し、可能性を広げる一年となるでしょう。

医療・介護を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、先般の補正予算による支援金の決定により、ひとまず安堵を得ることができました。私たちも経営努力を重ね、医療・介護の質とサービスを損なうことなく、DXの活用による業務効率化やワークシフトの推進、生産性の向上に取り組んでまいります。

地域の皆様の健康で豊かな生活を守り続ける社会インフラとして、関係するすべてのステークホルダーと共に地域を支えていくことが私たちの使命です。2040年に向けた新たな地域医療構想では、入院医療に加え、外来・介護・在宅の視点が重要となります。持続可能な医療介護提供体制を構築するため、現在、地域医療連携推進法人設立に向けて準備を進めています。私たちも在宅医療や予防分野をさらに推進し、地域の医療介護施設等との連携を深めながら、住み慣れた地域で生涯幸せに暮らせる「地域包括ケアシステム」、さらに互いに役割を持って生きる「地域共生社会」の実現を目指してまいります。

高市総理の元、日本経済の再生を願い、そして国民の安心・安全のために最も重要な医療・介護提供体制の充実を心より願っております。本年も引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 牧リハ学術フェスティバル

社会医療法人 ONE FLAG 牧リハビリテーション病院  
牧リハフェスティバル運営チーム

おおの ひろき  
理学療法士 大野 博幹

院内に、いつもとは違う活気が満ちた一日がありました。  
2025年10月17日、第3回「牧リハ学術フェスティバル」  
を開催した日です。

このイベントは、年に一度スタッフの“学びたい”“挑戦  
したい”という思いが集まり、普段の業務では見られな  
い表情や発想が輝く、当院ならではの取り組みです。

フェスティバルは約1年をかけて準備を進め、のれん・  
ポスター・抄録集に至るまで、すべてスタッフの手づく  
り。会場に足を踏み入れた瞬間、学術イベントでありなが  
ら温かさを感じる独特の雰囲気広がり、参加者の期待  
が自然と高まります。

今回の発表者は、学術発表が初めてのスタッフから、  
外部発表に向けて腕試しをしたいスタッフまで、多彩な  
顔ぶれが揃いました。聴講には多職種が参加し、普段は  
交わらない視点からの質問や意見が飛び交ったことで、  
発表者にとって“成長のきっかけ”となる時間が生まれま  
した。

演題内容は、業務改善、リハビリでの工夫、活動実績など多岐にわたり、どの発表も写真やグラフを  
活用した分かりやすいスライドで構成。日々の試行錯誤や現場の熱量が、会場にしっかりと伝わるもの  
でした。

また、誰でも気軽に参加できるよう、会場にはジュースやお菓子を用意。発表後には笑顔が広がり、  
自然と意見交換や相談が始まる——そんな温かい学術の場を作れたことも当院らしさのひとつです。  
演題の発表内容には、リハビリ訓練時の工夫したことや病棟活動の取り組みなどがあり、  
優秀演題には「ファイヤーボールペン」を、発表者全員には「熱いボールペン」を贈呈し、取り組みを称  
えるとともに、今後の挑戦へのエールとしました。

牧リハビリテーション病院には「学術の炎を消さない」という文化があります。このフェスティバル  
は、スタッフ一人ひとりの力を引き出し、患者さんや地域により良い医療を届けるための大切な基盤で  
す。運営チームとしてこれからもこの炎を絶やさず、学び続け、成長し続け、地域医療へ大きな形で還  
元できるよう取り組んでまいります。



### 発表演題一覧

照光式押しボタンスイッチにより二者択一選択が可能  
となった脳卒中後重度コミュニケーション障害の一例

リハビリテーション部 言語聴覚科:堀口希歩

電話訪問実施記録から見てきた退院支援を行うため  
の課題

看護部 3階病棟:夜久佳織

同一法人内の急性期病院と回復期リハビリテーション  
病院のOLSによる包括的骨粗鬆症予防啓発のイベント  
実施について

OLS委員会:大野博幹

MSWの流儀 ～病院のセーフティネットとしての役割～

事務部 地域連携室:榎並寛臣

失語症カフェはじめました

～つながる場・話せる場を訪問リハビリから～

訪問リハビリテーション門真:松田那帆



当院公式Instagramで  
牧リハ学術フェスティバルの  
様子をご覧ください



# 『にこやかに、おだやかに、すこやかに』 ～在宅生活の“安心”を支えるために～

支援相談員 よしだ しょうこ いのうえ まほ  
吉田 祥子・井上 真帆

牧すこやかセンターデイケアでは、様々な専門職が連携し、利用者様の在宅生活を支えています。利用者様や家族様の“自宅でどんな生活をしたか”に寄り添い、必要なサービスを提供しています。随時、体験利用や見学も受付中です！お気軽にお問い合わせください。

## 栄養科

利用者様の“ここのお食事は美味しい！”にお応えするべく、季節に合わせたバランスの良いお食事を提供します。バイキングや行事食もあります。



## 送迎員

日々、細心の注意で安全運転！笑顔で挨拶！利用者様からの「ありがとう」の言葉を励みに、やりがいを持ち取り組んでいます。



## リハビリ科

理学療法士、言語聴覚士が在籍しています。利用者様お一人お一人の悩みに応じたリハビリプログラムをご準備します。



# 各専門職の役割をご紹介します

## 看護部

体調管理は私たちにお任せください。医療的な処置が必要な方は、関係機関と連携し、適宜対応をさせていただきますので、ご相談ください。



## 介護部

介護のスペシャリスト、介護福祉士が10名以上在籍中。入浴・排泄・食事介助、お任せください！ダンスにカラオケに、行事も心も盛り上げます！



## 支援相談課

デイケアの相談窓口です。関係各所と連携し、安心してご利用いただけるよう支援いたします。



## リハビリ内容



## 理学療法士

病気やケガによって体が思うように動かせない、転倒するのが怖い、外出を控えて体力が低下したといったことをきっかけに、在宅生活への不安が出てくることもあるかと思います。生活に必要な「寝る、起き上がる、立つ、座る、着替える、食事を食べる、トイレに行く、お風呂に入る」等の動作が安全に行えるよう運動を主体としたリハビリメニューに理学療法士と一緒に取り組んでいきましょう。

## 言語聴覚士

食べること（嚥下）、話すことといった口腔器官を鍛えるリハビリや、集中力を鍛えたり考え事を整理するためのリハビリを行っています。食事が喉を通りにくい、食事中むせる事が増えた等、お悩みがあればいつでもご相談ください。



秋

夏

春

冬

春には『春高（春の高齢者）バレー大会』『お花見遠足』、夏には『盆踊り大会』『すいか割り』、秋には『運動会』『お芋ほり』、冬には『かるた大会』『節分』など季節に合わせた行事やイベントを企画しています。利用者様の笑顔が、一番。リハビリのモチベーションアップのため、余暇時間も楽しく過ごしていただけるよう心がけています。

## 行事紹介

## 災害対策イベント

# お薬情報いつも一緒に～毎日の備えがあなたを守る!～

牧病院 外来看護部 **わたなべ ひろえ**  
**渡邊 敬恵**

先日、当院でインターネットの通信障害によりカルテ閲覧が出来なくなりました。診察が一時ストップし、外来診察に混乱が起きました。また近年、サイバーテロでパソコンが使用できなくなることや各地で災害も発生しています。今後も、いつどこで何が起こるか分かりません。過去には東日本大震災時、お薬情報を患者さんが備えていることで、スムーズに対応できた事例がありました。お薬手帳があると必要な情報がすぐわかり、安心して医療を受けることができます。

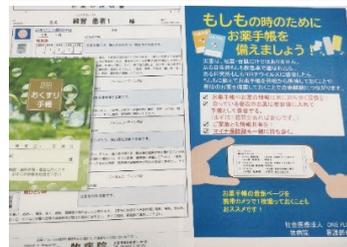
そこで11月4日(火)に牧病院外来待合にて、日頃から自身の服薬情報を持ち歩く事の大切さを紹介するイベントを開催しました。

当日はサイネージやポスターの掲示を行いました。イベントブースでは動画を使いお薬手帳の大切さを説明し、お薬情報を持ち歩くことの必要性やお薬手帳の活用方法について説明し、一緒に既往歴やアレルギーなどを記載させていただきました。

イベントに参加していただいた30名にアンケートを実施したところ、お薬手帳を常に持ち歩いている方は5名のみでした。動画視聴後には、全員がお薬情報の重症性の理解がとて深まった・ある程度深まったと回答いただきました。今後、お薬手帳やお薬情報を持ち歩こうと思う方が25名でした。

イベントを開催することで、患者さんだけでなく、医療従事者もお薬情報の大切さやお薬手帳の活用法を学ぶことができました。

日常的に服薬情報を携帯することで、患者さん一人一人が災害時や緊急時にも安心して医療を受けられるよう、今後も啓発活動を続けていきたいと思えます。



## 世界糖尿病デーイベント

# 牧病院\*World DiabetesDay

牧病院 臨床栄養科 **おおは まさみ**  
**大羽 雅美**

当院の糖尿病ケアチームは外来の患者さんを主対象として、血糖コントロールが必要な方の療養のお手伝いを行っています。日本でも2016年の糖尿病実態調査において「糖尿病が強く疑われる人」が約1000万人存在し、さらに「糖尿病の可能性を否定できない人」が約1000万人存在するとの結果が出ており、総人口の15%以上が糖尿病患者及び予備軍と推定されています。

世界に広がる糖尿病の脅威に対して国際糖尿病連合と世界保健機構(WHO)が普及啓発のために11月14日を世界糖尿病デーと制定しました。この11月14日はインスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日で、当院でも「牧病院\*World DiabetesDay(世界ダイアベティスデー)」と冠して、外来で啓発イベントを実施しました。

看護師による自己血糖測定や、栄養士による低糖質食品の紹介、糖尿病に関するパンフレットの掲示・紹介を行いました。28名の方が血糖の自己測定を体験し、その測定した血糖値について朝食の有無や運動量と比べながらお話を聞いていただきました。また、低糖質・ダイエット等に興味のある約45名の方には低糖質食品・甘味料のサンプルなどとあわせて、バランスの良い食事をご紹介いたしました。今のご自分の食べている食事の量からエネルギーだけではなく糖質とタンパク質の割合など、高齢者にとって注意したいフレイルについても触れながらお話ししました。

自己測定に必要な血液の量の少なさに驚かれる方も多く、インスリン注射の針はもっと細い事もお伝えし、特別な治療ではなく、少しの注意で日常生活が送れることも気づいていただきました。

「糖尿病」と聞くだけで、不摂生をしているのではないかと疑問を持たれることが減るよう、病気の成り立ちも含めて今後も啓発に努めていきます。



# 笑って元気!秋の運動会

まきデイサービスセンター 課長 ひろた なおこ  
廣田 直子



まきデイサービスセンターでは毎月季節に合わせた様々なイベントを行っています。その中から今回は特に盛り上がった運動会の様子をご紹介します。

利用者も職員も紅白に分かれ、額にハチマキを装着しやる気満々!最初の競技は「風船バレー」です。風船を打ち合いながら、何回ラリーを続けられるかを競いました。「立ってはいけませんよ～」と声をかけても、思わず体が前のめりになるほどの白熱ぶり。風船がふわりと落ちそうになるたびに「あっ、そっち!」「ナイス!」と歓声が上がリ、皆さんの表情は真剣そのもの。まるで子どもの頃に戻ったような笑顔がたくさん見られました。

続いては「ピンポン玉送り」。紙コップの底を使いピンポン玉を隣の方へ送るシンプルな競技ですが、これがなかなか難しい!落とさないように皆さんの手元には自然と力が入り、会場は緊張感に包まれました。それでも「はい、どうぞ」「ゆっくりでいいよ」と声を掛け合い、普段あまり関わりの少ない方同士も協力して玉を繋ぐ姿が印象的でした。小さなボールひとつを通じて、まさに“一致団結”が感じられるひとときでした。

続く「借り物競走」では、難易度をアップし「赤い耳で水色のメガネの職員」など、一筋縄ではいかないお題を出題!チーム全員でお題を共有し、周りをキョロキョロと見回し「あの人じゃない?」と掛け声を送りながら探されていました。マスコットキャラクターの「くまっきー」や「まきモン」も登場し、さらに会場を盛り上げてくれました。

最後を締めくくったのは「玉入れ」。紅白それぞれのチームがカゴめがけて次々と玉を投げ入れ、会場は最高潮に。利用者も職員も一体となって取り組みました。

全ての競技が終わると、「楽しかった」「いい汗かいた」と、あちらこちらで笑顔がこぼれました。勝敗を競う中で、普段とは違う真剣な表情や負けず嫌いな一面も見られ、利用者さんの新たな魅力を垣間見ることができました。また競技を通して自然と生まれる声かけや協力の輪が、何よりの成果だったと思います。さあ、次はどんな楽しいことをしようか♪今からワクワクしています!



## 牧病院内科初診外来WEB予約について

お持ちのスマートフォンやパソコンから  
下記の二次元コードよりアクセスしてください。

内科初診外来のWEB予約が可能になりました。  
当院の受診が初めての方や、お久しぶりの方でもご予約が可能です。

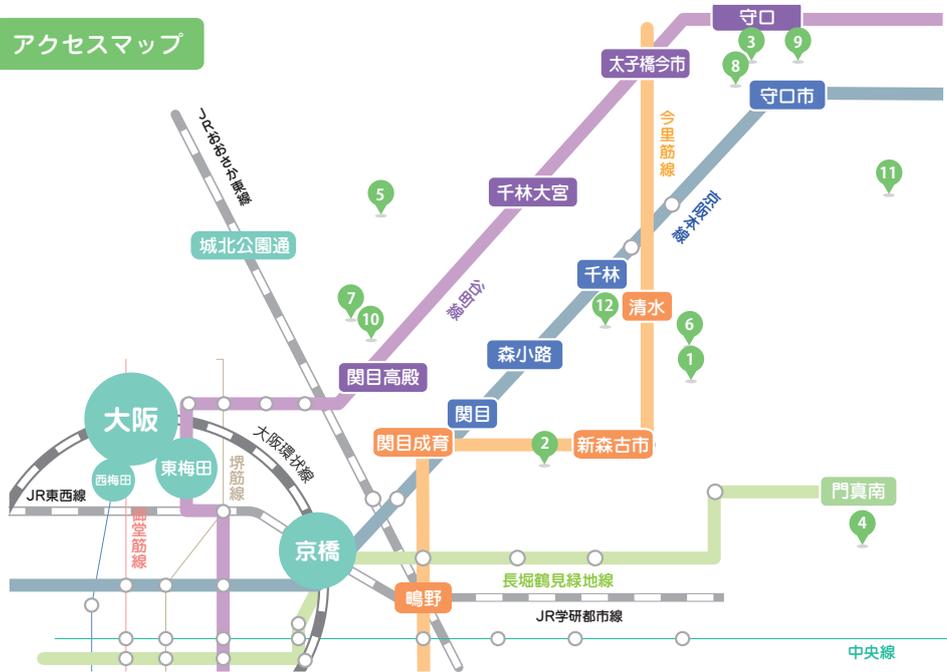
内科  
初診外来

- ・月～土（祝日および12/30～1/3を除く）
- ・受付時間：8:20～11:30（最終受付）
- ・予約方法：WEB・電話・受付窓口



E PARK Doctor  
インターネット予約受付中!

### アクセスマップ



### PURPOSE 社会的意義

## Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

### PROMISE 私たちの約束

#### 『Professional』

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、  
日々研鑽を重ねます。

#### 『Heart』

あたたかい思いやりの心とともに、  
あなたに寄り添います。

#### 『Team』

和をもった信頼されるチームで、  
あなたを支えます。

URL <https://www.maki-group.jp>

発行日 2026年1月1日 編集者 法人広報委員会  
発行者 社会医療法人 ONE FLAG 編集・印刷 マツモト株式会社

1

### 牧病院

〒535-0022 大阪市旭区新森7-10-28  
TEL: 06-6953-0120

牧病院デイケアセンター

TEL: 06-6953-1881

牧病院訪問リハビリテーション

TEL: 070-5043-0494

2

### おおさかグローバル整形外科病院

〒536-0008 大阪市城東区関目6-15-30  
TEL: 06-6786-6200

3

### 守口グローバル整形外科

〒570-0083 大阪府守口市京阪本通2丁目2番4号  
イオンタウン守口3階(守口駅出ですぐ)

TEL: 06-6997-9860

4

### 牧リハビリテーション病院

〒571-0015 大阪府門真市三ツ島3-6-34  
TEL: 072-887-0010

牧リハビリテーション病院デイケア門真

TEL: 072-887-0050

牧リハビリテーション病院

訪問リハビリテーション門真

TEL: 072-887-0010

5

### 牧老人保健施設

〒535-0004 大阪市旭区生江2-15-14  
TEL: 06-6929-0300

6

### 牧訪問看護ステーション

〒535-0021 大阪市旭区清水4-2-22  
TEL: 06-6953-1222

牧けあぷらん清水

TEL: 06-6953-1235

牧ヘルパーステーション

TEL: 06-6953-1107

牧ふくし用具

TEL: 06-6958-1030

まきデイサービスセンター

TEL: 06-6953-1506

### 旭区東部地域包括支援センター

〒535-0021 大阪市旭区清水4-2-22  
TEL: 06-4254-3336

7

### 牧訪問看護ステーション 高殿出張所

〒535-0031 大阪市旭区高殿6-18-41-107  
TEL: 06-4254-6660

牧けあぷらん高殿

〒535-0031 大阪市旭区高殿6-18-41-201  
TEL: 06-6955-7511

8

### 牧訪問看護ステーション守口出張所

〒570-0028 大阪府守口市本町1-7-21-102  
TEL: 06-6991-5556

9

### 牧けあぷらん守口

〒570-0082 大阪府守口市豊秀町2-2-19-102  
TEL: 06-6991-5557

10

介護老人保健施設

牧すこやかセンター

〒535-0031 大阪市旭区高殿6-14-41  
TEL: 06-6955-4865

11

### 守口第5地域包括支援センター

〒570-0033 大阪府守口市大宮通1-13-7  
TEL: 06-6992-1180

12

### 法人本部

〒535-0021 大阪市旭区清水2-11-14  
TEL: 06-6953-0190



この広報誌は、メディアユニバーサルデザインに配慮して制作しております。